

## 絹本墨書「趙文楷書」保存修繕報告

輝広志\*1 宇保朝輝\*2 當間巧\*3

### I. はじめに

本作品は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵の「趙文楷書」である。作品は墨書が2枚の絹帛に書かれ、継ぎ合わされ卷子装に仕立てられていた。平成29年6月13日から平成30年3月31日、石川堂で修復を行った。今回の修復では本紙の折れ・皺、欠失損傷箇所の修復後、旧卷子装に使用されていた裂地は元使用し、再び卷子装に再装丁した。

### II. 作品の形状及び寸法

修復前後の法量は以下の通りである。

#### 1. 本紙

①基底材

絹帛

②寸法

	本紙丈	第1紙幅	第2紙幅
修復前	24.5cm	175.2cm	111.3cm
修復後	24.8cm	177.1cm	112.4cm

③本紙枚数 1枚

④画材 墨・膠

⑤本紙の特徴 2枚を継ぎ合わせた絹帛、1箇所の継ぎ、

#### 2. 装丁

修復前

①装丁

卷子装

②表具寸法

丈 28.7cm 幅 372.7cm

③表装形式

玉地仕立

④裏打ち紙

3層

肌裏紙・楮紙

増裏紙・楮紙

総裏紙・楮紙

⑤表紙裂

納戸地烏唐草文緞子

⑥見返し

金砂子撒き装飾料紙

⑦玉地裂

藍地宝尽文紗

⑧軸首

銀製無地金軸

⑨収納箱

桐印籠箱

\*1 一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係

\*2 一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係 主事

\*3 石川堂 代表

修復前 卷子全図3分割



装丁

修復後

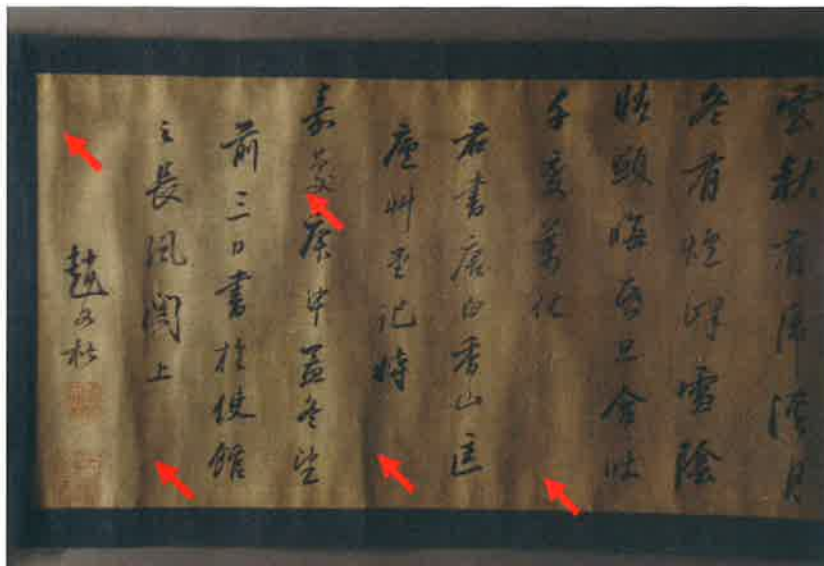
- |       |  |
|-------|--|
| ①装丁   | 卷子装  |
| ②表具寸法 | 丈 28.8cm 幅 401.1cm                             |
| ③表装形式 | 玉地仕立   |
| ④裏打ち紙 | 3層<br>肌裏紙・楮紙（新調）<br>増裏紙・美栖紙（新調）<br>総裏紙・江宣紙（新調） |
| ⑤表紙裂  | 納戸地烏唐草文緞子（元使用）                                 |
| ⑥見返し  | 金砂子撒き装飾料紙（新調）                                  |
| ⑦玉地裂  | 藍地宝尽文紗（元使用）                                    |
| ⑧軸首   | 紫檀印卷軸（新調）                                      |
| ⑨収納箱  | 桐太卷添桐印籠箱（新調）                                   |

修復後 卷子全図3分割



Ⅲ. 修復前の損傷状況

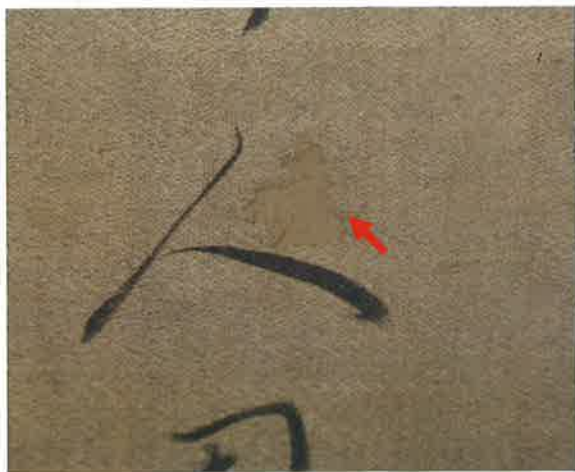
1. 本紙には折れ・皺が生じていた。



修復前 本紙第2紙末部 強い折れが多数確認できる。

左部より斜光線を当て、折れを強調。

2. 本紙料絹には欠失損傷箇所が見られた。



修復前 本紙1紙 欠失損傷箇所



修復前 本紙2紙 欠失損傷箇所

#### IV. 修復方針及び概要

1. 実施の作業及び方針の決定・変更等は、首里城公園管理部の本件担当者と協議・監督の下進める。

2. 墨・朱印の剥落止めを行う。

墨・朱印の状態を調査した結果、墨文字・朱印の状態は良好であった。剥落止めによる過度な膠投与は、墨又は料絹の硬化を招く結果となる為、今回の修復では剥落止めは行わない事とした。

3. 汚れの除去作業を行う。

本紙全体を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。

4. 本紙両絹の欠失箇所に適する補修絹で繕いを施す。

補修絹は、風合質感を考慮し中国産の絹帛を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

5. 本紙の折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に、伝統的な修理方法である折れ伏せを入れる。

6. 表紙裂・玉地裂を元使用する。

表紙裂と玉地裂について協議し、旧表紙裂・玉地裂をクリーニング後、元使用する方針に決定した。

7. 見返し金砂子撒き紙、軸首、八双、軸木、巻き紐を新調する。

8. 桐太巻添軸桐印籠箱、白絹帛袱紗を新調する。

収納保存にあたっては太巻添軸に添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。



## V. 修復工程

1. 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。
2. 卷子装を解体し、旧裏打ち紙を捲り取った。



修復中 卷子装の解体作業



修復中 裏打ち紙除去作業

3. 玉地裂地を本紙から捲り取った。

右：修復中 玉地裂の取り外し作業



4. 本紙汚れの除去を試みた、作業は本紙を傷めない範囲にとどめた。濾過水を用い本紙表面に表打ちを施し、旧肌裏紙を捲り取った。

右：修復中 旧肌裏紙の除去作業



5. 小麦粉澱粉糊（新糊）を用い、美濃紙で本紙と新調した軸巻紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。



修復中 本紙の肌裏打ち作業



修復中 軸巻紙の肌裏打ち作業

6. 本紙両絹の欠失箇所を補修（補絹）を施した。補修に使用する絹は風合い質感などの点から、中国産の絹帛を用いた。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後使い、糊は新糊を使用した。



修復中 本紙補絹作業

7. 元使用する旧玉地裂地のクリーニングを行い、美濃紙で肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車、墨）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。糊は新糊を使用した。

右：修復中 玉地裂の裏打ち作業



8. 軸巻紙・玉地裂・本紙に美濃紙を使用し増裏を打った。糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。



修復中 玉地裂の増裏打ち



修復中 軸巻紙の増裏打ち



修復中 本紙の増裏打ち作業

9. 本紙の横折れが生じている箇所、今後明らかに生ずるとされる箇所に折れ伏せを施した。折れ伏せ紙は美濃紙（長谷川紙）用い、糊は新糊を使用した。

右：修復中 折れ伏せ入れ作業



10. 本紙・玉地裂・軸巻紙を継ぎ合わせた。



修復中 玉地裂の継ぎ合わせ作業



修復中 本紙の継ぎ合わせ作業

11. 江宣紙を使用し総裏を打った。江宣紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。糊は小麦粉澱粉糊と布海苔溶液を混合したものを使用した。裏打ち後、仮張りを施した。



右：修復中 総裏打ち作業

12. 軸首、八双、軸木、巻き紐を新調した。

13. 元使用する表紙裂のクリーニングを行い、美濃紙で肌裏を打った。同時に江宣紙に金砂子を撒き、見返しを製作した。糊は新糊を使用し表紙は裏打ち後、見返しは製作後、仮張りを施した。



修復中 表紙裂の裏打ち作業



修復中 金砂子を撒き作業



14. 表紙裂と見返しを張り合わせ、八双、巻き紐を取り付け表紙を作製した。

右：修復中 表紙と見返しを張り合わせる



15. 軸を取り付け、表紙と本紙を継ぎ合わせ卷子装を完成させた。



修復中 軸の取り付け作業



修復中 表紙を継ぎ合わせる

16. 桐太巻添軸桐印籠箱を新調し、紙帙を製作後、表具を白絹帛袱紗に包み印籠箱に収納した。

右：桐太巻添軸桐印籠箱



17. 修復後の写真撮影・報告書を作成した。

## VI. 修復前後の状態

### 1. 表紙裂・玉地裂

表紙裂と玉地裂について協議した結果、クリーニング補修を施し裏打ち後元使用した。

右：修復後 元使用した表紙裂

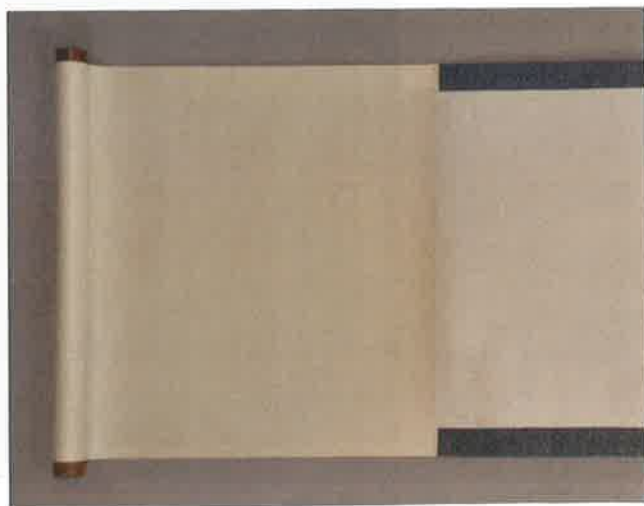


修復後 卷子部分写真 元使用した玉地裂

### 2. 軸巻紙

軸巻紙を新調し付け足し、本紙巻末部分に加えられる巻の強さを軽減した。

右：修復後 軸巻紙



### 3. 軸首

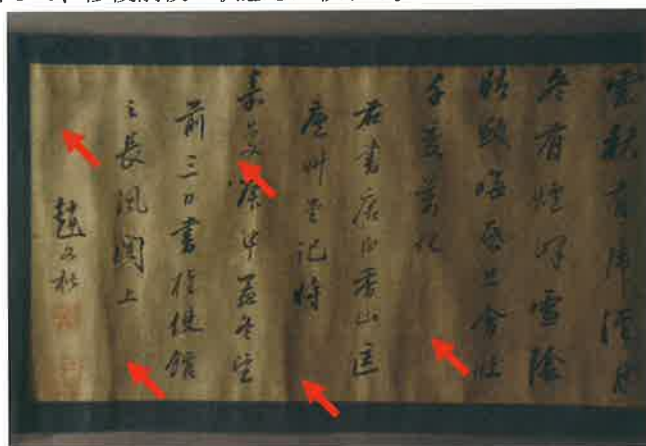
修復後の軸首について協議、全体との調和を考慮した結果、「紫檀印巻軸」を使用した。

右：新調した紫檀印巻軸

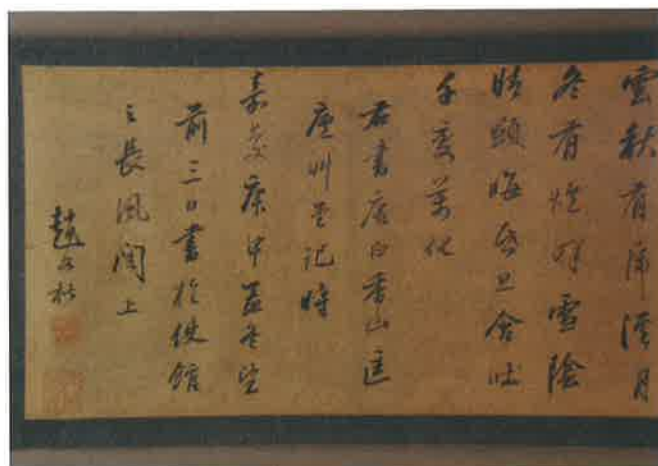


### 4. 本紙の折れ

左より斜光線を照射して、修復前後の状態を比較する。



修復前 本紙第2紙巻末部 強い折れが多数確認できる。



修復後 本紙第2紙末部 折れが収まり平滑な本紙面

## 5. 本紙の欠失箇所

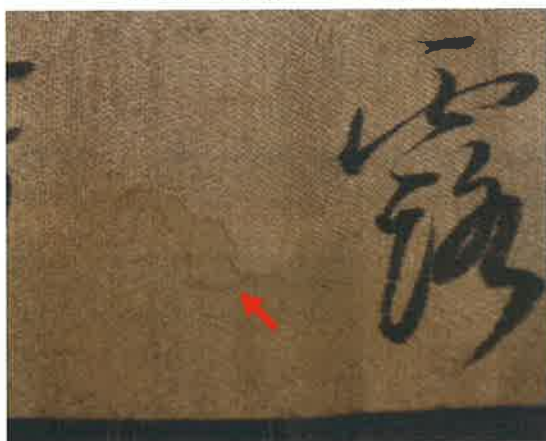
過去の修理時には補修補絹が施されておらず、裏打ち後卷子装に仕立てられていた。補修絹は欠失箇所の形状に合わせ施し不均衡を無くした。補修に使用する絹は風合い・質感などの点から、中国産の絹帛を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後使用した。



修復前 本紙第1紙 欠失箇所



修復後 第1紙 欠失箇所



修復前 本紙第2紙 欠失箇所



修復後 第2紙 欠失箇所

## 6. 本紙・墨文字

玉地裂地を本紙から捲り取る作業の中で、墨文字部分が玉地裂との継ぎ部分重なり隠れているのが確認された。以上の点を考慮し、隠れていた墨文字部分を出来る限り出し本紙面を広くした。



修復前 本紙第1紙 部分写真



修復後 第1紙 部分写真





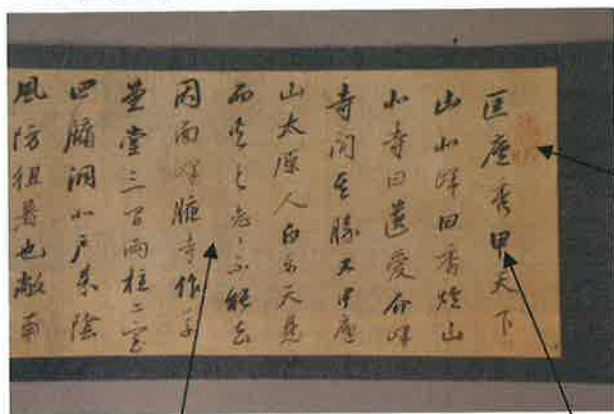
修復前 本紙第1紙 部分写真



修復後 第1紙 部分写真

## VII. 本紙の顕微鏡撮影

本紙の顕微鏡撮影を行った。撮影は修復後、本紙の安定した状態で実施した。



朱印 朱



本紙料絹



墨書 黒

## VIII. 修復諸資材

### 1. 接着剤

#### ①新糊（中村糊店・京都府京都市下京区）

原材料は小麦粉澱粉。水によく沈殿させ煮出した後、糊化したものを使用する。

肌裏打ち・折れ伏せ入れ等各所に使用。



#### ②古糊

原材料は小麦粉澱粉。新糊を瓶に入れ5年程鍾乳洞にて保存したものを使用した。新糊に比べ接着力は劣るが、柔軟性を与え保つ事が出来る。「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し裏打ちを行う。

増裏打ちに使用。



#### ③布海苔（八木熊・福井県）

原材料は紅藻類のフノリ科の海藻。水に煮出した溶液を使用する。適度な粘度・接着力を有する。

新糊と混ぜ、総裏打ちに使用。



### 2. 染料

天然染料 矢車（中村長商店・京都府京都市中京区）

原材料はカバノキ科ハンノキ属夜叉五倍子の果実。

果実を水で煮出した後の染料溶液を使用する。

本紙肌裏紙、補修紙、総裏紙の染色に使用。



### 3. 紙

#### ①美濃紙 長谷川紙（長谷川和紙工房・岐阜県美濃市）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。本紙、玉地裂、表紙裂の肌裏紙・折れ伏せ紙に使用。

#### ②美栖紙（昆布尊男製・奈良県吉野郡吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。紙漉きの際、古粉（炭酸カルシウム）を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。増裏紙に使用。

#### ③江宣紙（成子紙工房・滋賀県大津市）

原材料クワ科の楮とジンチョウゲ科の雁皮。それぞれ楮7：雁皮3の割合で配合された手漉き和紙。楮の強靱さと雁皮の風合いを併せ持つ混合紙。総裏紙に使用。

### IX. 作業期間

自・平成29年6月13日

至・平成30年3月31日

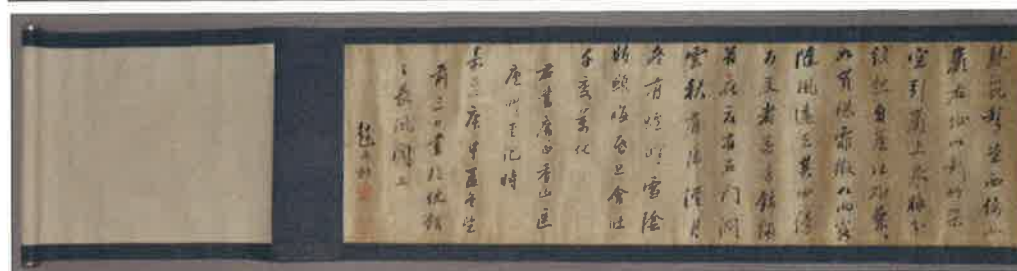
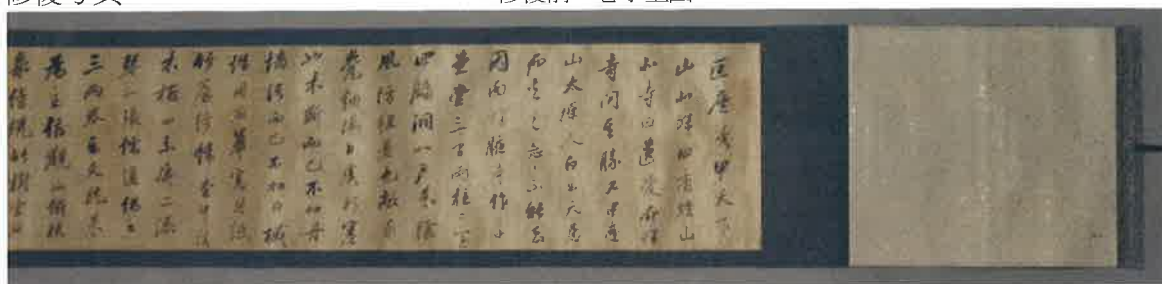
### X. 作業場所

沖縄県うるま市石川 2738-11-2F

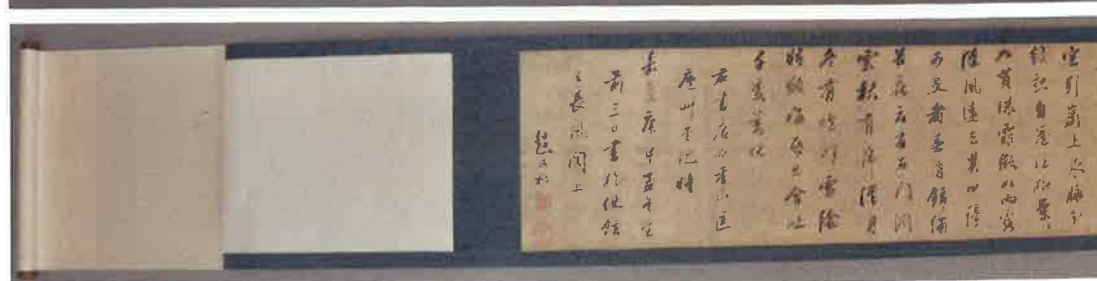
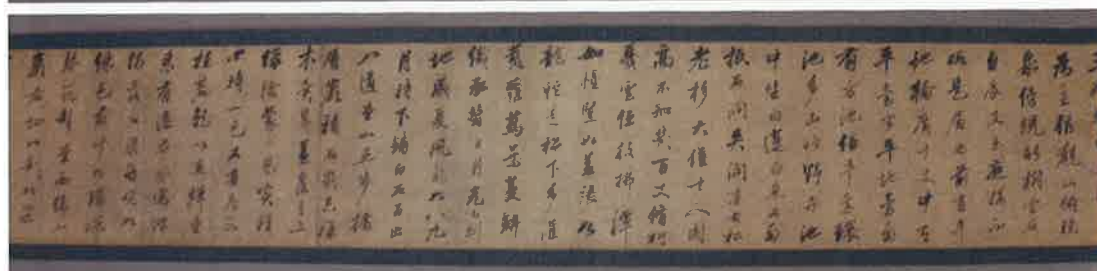
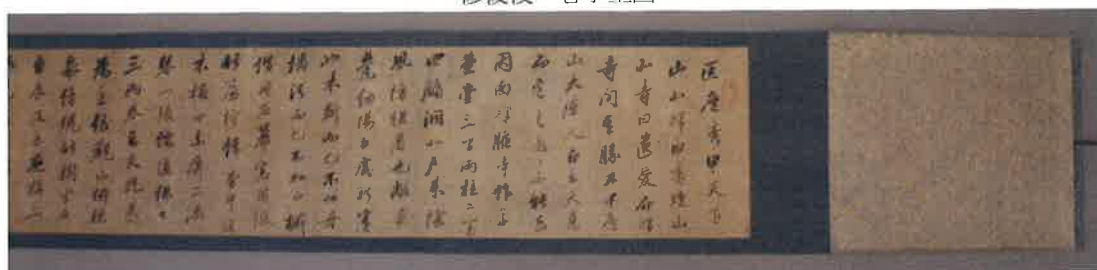
石川堂 當間巧

XI. 修復写真

修復前 卷子全図

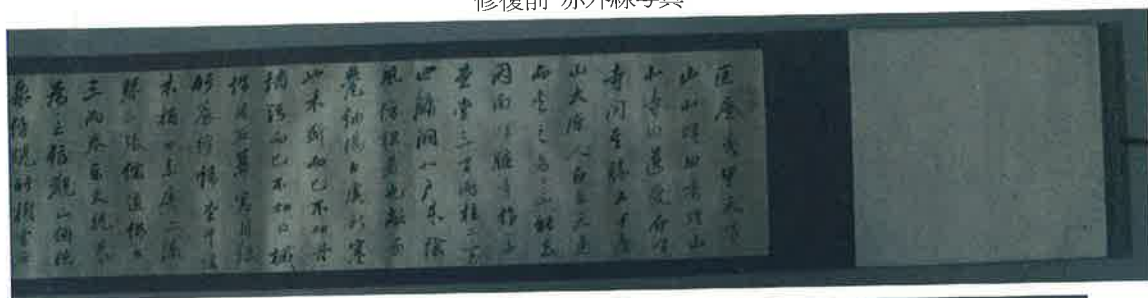


修復後 卷子全図

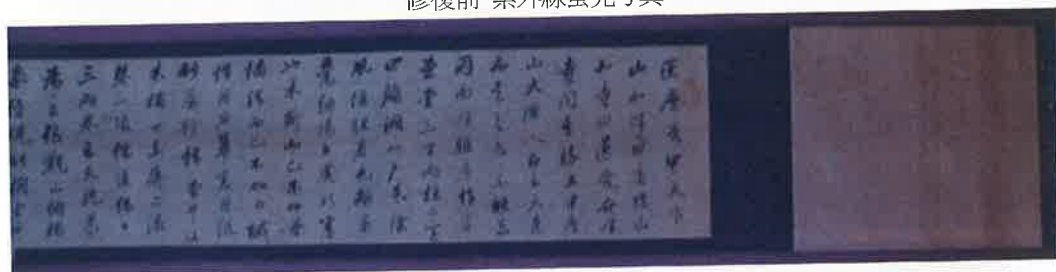




修復前 赤外線線写真



修復前 紫外線蛍光写真



修復前 卷子全圖 斜光線写真



修復後 卷子全圖 斜光線写真



修復前 桐印籠箱



修復後 桐太巻添軸桐印籠箱



修復前 作品を巻いて収めた様子



修復後 桐太巻添軸芯に作品を巻いて収めた様子



修復後 桐太巻添軸芯

